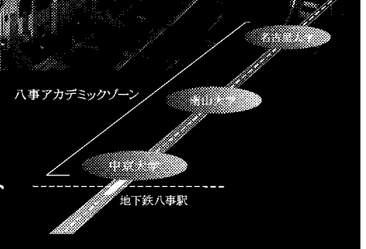
2013年4月 中京大学 名古屋キャンパスに「工学部」誕生

2013年4月開設予定



Evolution!

各種学術研究機関が集結する八事アカデミックゾーンの中心、
中京大学名古屋キャンパスに、工学部※が誕生する。
［機械システム工学科］［電気電子工学科］
ここでは、ITとの融合が進む現代のものづくりに対応した最先端の工学教育を展開。
新技術への適応力と高度な専門性を4年間で確実に身につける。
社会へ、そして未来へ、中京大学の進化はこれからも続く。

CHUKYO UNIVERSITY

工学部では、100%就職を目指した4年間にわたるキャリア支援を展開　中京大学ネットキャンパス　検索

地下鉄八事駅直結

名古屋(八事)キャンパス…工学部※(機械システム工学科・電気電子工学科)
国際英語学部・国際教養学部・文学部・心理学部
法学部・経済学部・経営学部・総合政策学部

豊田キャンパス　※2013年4月開設予定
工学部※(情報工学科・メディア工学科)
現代社会学部・スポーツ科学部

お問い合わせ先…入試センター
〒466-8666名古屋市昭和区八事本町101-2
TEL.052-835-7170・7173
<電話受付時間>平日9:00～17:00(土・日・祝日休)

TOMOE made in バタム。
インドネシア全土にも届けます。

「確かな技術」と「国際規格を満たす品質」で世界が認める
TOMOEのインドネシア・バタム工場製バタフライバルブ。
いよいよ、インドネシア国内でも販売をスタート。
経済成長著しいインドネシアの“流れ”を私たちの
バタフライバルブがサポートします。

TOMOE　流体制御・コストパフォーマンスの両面で優れた性能を発揮。
上下水道や石油・化学、造船など、世界が求める
「バタフライバルブ」をご提案します。

巴バルブ株式会社
www.tomoevalve.com

お問い合わせは
巴バルブ株式会社 本社
〒550-0013
大阪市西区新町3-11-11
TEL(06)6110-2101

PT. Tomoe Valve Batam
Block F 2 Latrade Industrial Park, Jl. Sei Binti Tanjung Uncang Batam 29422 Indonesia
TEL 010-62-778-395466
http://www.tomoe-batam.com

■便利な投資手続きサービス

ワンストップ申請

バタム島の「バタム・センター」では、BBKなどリアウ諸島州への投資に必要な各種ライセンスが1カ所で取得できるワンストップサービスを提供している。海外からの投資企業に対してインドネシア投資調整庁(BKPM)への投資申請、財務省、法務移民省、各地方自治体への各許認可申請が「ワンストップ」で行え、素早い手続き上のサービスを提供している。同センターでは、個人事業者であれば本人のパスポート、企業であれば登記簿だけで、商業ライセンスが数日以内に発行されるという。わざわざジャカルタに行かなくても同エリアでの投資に素早く対応してくれる。

バタムセンター フェリーターミナル

BBKトピックス

巴バルブ

「市場ニーズを考える」ことを欠かさない巴バルブは、顧客の急速なグローバル化にも対応するため、バタムに早くから進出を決めた。インドネシア政府は国内生産品の使用を強く勧めており、石油、ガス用にはもちろん、幅広いプロジェクト用の部材使用に関わる今後の入札では国内製品中心という政策を打ち出している。巴バルブは海外拠点の一つであるインドネシア工場をバタム島西部のラトレード工業団地に構えており、ここで幅広いレンジのバルブを生産し、営業活動も行っている。インドネシアの国内使用はもちろんのこと「確かな技術」と「国際規格を満たす品質」のバタフライバルブを世界に送り出す生産体制を充実させている。

中京大学

中京大学では、アジアで広く通用する英語の勉強を目的として国際英語学部の学生グループをシンガポール、バタムなどに毎年3―4回研修旅行に送りこんでいる。現地の大学や工場を訪問し現地事情の視察を通じてその国の政治、経済、産業に理解を深めるとともに、現地の若者たちとの友好親善に新たな道を切り開いて好評である。ここ数年、中小企業の海外進出が大幅に増えており、若い海外人材が強く望まれている中で、将来世界で活躍する人材育成に積極的に取り組んでいる。

BBK Free Zone 投資に魅力的な3島

BATAM BINTAN KARIMUN

BBKの中でも外国企業の進出が最も盛んな地区がバタム島だ。1971年に外資受け入れ窓口として、バタム工業開発庁(BIDA)がインドネシア大統領の直属機関として設立され、シンガポールに近い利便性や豊富で良質な労働力などを背景に輸出型企業の立地が急ピッチで進んでいる。現在、同島内には26の工業団地があり、800を超える外国企業が操業、約6000の各種国内企業が存在する。電気、通信、道路など基幹インフラが整備されているため、パナソニックやエプソン、巴バルブなどに加え、最近では自転車部品のノジマ、日東電子など日系企業からの投資も盛んだ。島には四つの貨物積み出し港と五つの乗客用のフェリーターミナル、インドネシア最長の滑走路を備えるハン・ナディム国際空港があり、ジャカルタ、シンガポール、マレーシアなどをはじめとする主要都市を結ぶ。電力は国営電力会社からの供給のほか、国営のガス会社から発電用、民間事業用にガスの供給を受けることができる。また、水資源は島内8カ所の貯水池で、毎秒4440リットルの供給能力を持つ。工業、貿易、観光、三国貿易という四つの面において現在、戦略的な投資先として各国から注目されている。

バタム島

再輸出に最適な拠点

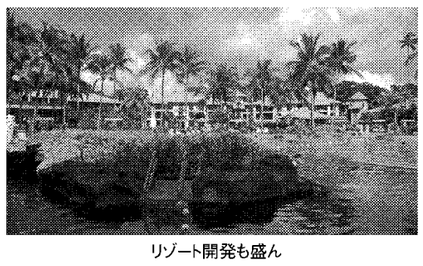
日本企業の進出が目立つ

バタム島はこれまでの開発で土地の確保が少し難しくなってきているが、ビンタン島は土地を広く使いたい業種には魅力的な島だ。工業団地内でも、まだまだ広大な土地が確保できる状況にある。ビンタン島南部にあるビンタン工業団地は4000㌶の広大な工業団地だ。シンガポールから50キロメートル、フェリーで約90分。同団地には専用港があり、フェリーのほか、貨物の通関ができる税関もある。

ビンタン工業団地はバタム島のバタミンド工業団地(BIP)と同じ経営の臨海工業団地である。ビンタン工業団地はバタム島のBIP開設から4年ほど過ぎた1994年7月に操業を開始、500㌶の既開発用地の標準工場には日本電産、住友金属鉱山、第一精工などが進出しており、従業員1万500人を収容できる寮も団地内に完備されている。新日本製鉄の関係会社の吉川工業が7割出資する吉川半導体グループ企業である吉川セミコンダクタはここに大型工場を構え、半導体組み立てを年間の休日ゼロで、24時間操業している。

ビンタン島

大自然豊かなリゾート地帯



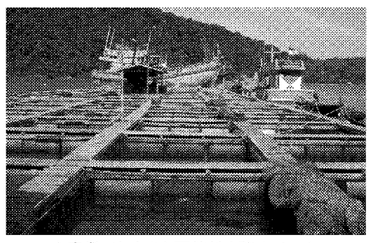
リゾート開発も盛ん

ロバン工業団地では、3700㌶の衣料製造工場がスタートし、有望な産業として期待されている。また電子機器生産も今後に有望視されている産業の一つである。14の衣料工場と18の電子機器工場がロバン工業団地の10%を占める新たな産業としてシンガポール、マレーシアとインドネシアの共同作業で新たな経済発展を形成しつつある。

カリムン島はBBKの中で後発ながら今後に大きな可能性を秘めたフリーゾーンである。豊かな土地と海域に恵まれていることからシップヤード(造船、修理)、水産業、農業、畜産、観光産業の誘致に力を入れている。バタム島には既に数十社のシップヤードが存在し適切な海域は満杯の状況。最近は造船により十分な水深を持つカリムン島を視察する造船会社が増えている。マラッカ海峡を通る船舶の数からみても将来の可能性は非常に大きい。石油、ガスをはじめ林業開発の可能性も大きく外国企業の進出に期待が大きい。最近、海洋油田用の機材を組み立てるイタリア企業が操業をはじめた。また、同島では農業も盛んであり、果物のドリアンも有名。カリムン島を取り巻く小島群は漁業が中心で、農産物や魚を原料にする加工食品の外国投資にも期待している。毎月2万人を数えるシンガポール、マレーシアからの訪問者を迎える観光産業も有望な投資先と考えられる。今後は海洋、農業、森林分野および貿易、観光客用のショッピングセンターなどへの広がりも期待できる。

カリムン島

造船、水産業林業に潜在需要



水産業でも大きな可能性を秘めている

私たちが日本とインドネシアの
懸け橋になります。

私たちは既に、インドネシア各地、特にバタム・ビンタンにおいて現地調査、プラントの設計から建設、
現地法人設立までのプロジェクトを携わらせて頂いています。
貴社のプロジェクトが初期的な企画段階でも、またその規模の大小に関わらずお気軽にご相談ください。

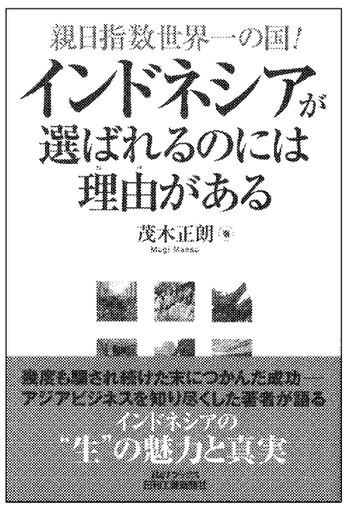
SAP
Selamat ASEAN Partners

事業内容
インドネシア事業コンサルティング
インドネシア現地法人設立代行
翻訳・通訳(日本語・インドネシア語・英語)

スラマット・アセアン・パートナーズ株式会社
代表取締役　ジェフリー　J.ヘイゼマー
インドネシア担当取締役　入江義雄　(090-6149-9458)
●〒158-0096　東京都世田谷区玉川台 2-11-4　●TEL.03-3707-3707
●e-mail：info@ selamatpartners.com　●URL：www.selamatpartners.com

好評! 日刊工業新聞社の本

親日指数世界一の国!
インドネシアが
選ばれるのには理由(わけ)がある



茂木正朗著　●四六判　●定価1470円(税込)

空前の企業進出ブームに湧くインドネシア。欧米や日系企業だけでなく韓国、中国企業の進出も著しい。本書は、親日指数が世界一である有数の親日国家インドネシアおよび首都ジャカルタの今を軽快な文章で綴るビジネス書。さらに海外ビジネス経験が浅い初心者が陥りやすい落とし穴についても解説する。

◆目次
■第1章　海外進出するなら、最後の楽園インドネシア
■第2章　無限の可能性を秘めたインドネシアと不思議な都市ジャカルタ
■第3章　明るく、人なつこいインドネシア人
■第4章　海外進出の勘どころ
■第5章　インドネシアの最新情報

◆お求めは書店または弊社出版局販売・管理部まで◆

日刊工業新聞社 出版局販売・管理部　〒103-8548東京都中央区日本橋小網町14-1　TEL03(5644)7410
http://pub.nikkan.co.jp/　FAX03(5644)7400